

## 岐阜農林事務所の普及活動状況

令和元年6月25日現在

### 今月の重点活動

#### ■スマート農業 GPS機能付き直進キープ田植機、大活躍

(農) 巢南営農組合では、国のスマート農業加速化実証プロジェクトにて、県やJAぎふ、農機メーカーとともにスマート農業技術の稲作を中心とした実証に取り組んでいる。

6月には、直進キープ田植機の実証を始めたが、この田植機は、GPS機能により機械自ら直進と速度を保つもので、作業者は水田の端に到着したら、回転作業だけ行えばよい。

そのため、機械に不慣れな作業員でも熟練農業者と同じ植え付けができ、疲労度も従来機に比べて軽減される。

6月25日にはTV取材もあり、実演もかねて田植え作業を行ったが、その正確な作業に集まった関係者も感心していた。

農業普及課では、スマート農業の一連の技術実証に際して、データ収集・分析を営農組合と連携して取り組んでいる。  
(農業普及課・酒井貞明)



【手を放しても直進走行】

### 新たなブランドづくり

#### ■ニンジン 小学生対象 寺子屋事業「各務原にんじんコース」を開催

6月22日、各務原市にて、寺子屋事業「各務原にんじんコース」が開催された。この事業は、子供たちが農業の現場を体験することで、市の特産物を深く理解し、農家の人々が培ってきた文化に触れることで、各務原市に誇りと愛着を持ってもらうため行われており、今年から各務原にんじんコースが新設された。

当日は、市内の小学生22名が参加し、にんじん選果場の見学や収穫体験、また、各務原産を使って「にんじんグミ」を開発した菓子メーカーから商品開発の楽しさや苦労話を聞いて、地元特産品の「にんじん」について多くを学んだ。

農業普及課からは、各務原にんじんの歴史や栽培について説明し、地元を代表する農産物である「にんじん」への関心を高めることが出来た。  
(地域支援第二係・水川 誠)



【選果場見学の様子】

### 多様な担い手づくり

#### ■いちご 青年部が活発に活動計画を論議

6月17日、岐阜市いちご部会青年部の打ち合わせが、JAぎふ黒野流通センターで開催された。

今までの青年部の主な活動は、販促PRであったが、今年度は定期的に現地研修会を開催し、技術向上と部会員同士の交流を深める案が、役員から提案された。

様々な意見が出たものの、毎年、新規就農者が新規部会員として加入し、技術向上が必要なことと、気象災害による被害が発生した場合の支援の経験などからより、一層の交流を深めることで意見がまとまり、計画案は認められた。

農業普及課では、今後も青年部の自主的活動を支援していく。

(園芸産地支援第二係・三和浩一)



【青年部役員で意見交換】

## 売れるブランドづくり

### ■小麦 新品種タマイズミRを試作

本県地域では、農業法人や担い手農家が水田を利用して188haで小麦を作付けている。

農業普及課では単収向上と実需者ニーズに適合した良質な小麦を生産するため、施肥や赤かび病防除、刈取時期などについてJAぎふと連携しながら指導を行い、今年6月2日より収穫作業が始まっている。

また、今年度は産地で問題となっている縞萎縮病に対処するため、県の奨励品種決定調査ほ場にて、導入を進めている縞萎縮病に強い「タマイズミR」の試作を行い、6月5日には坪刈調査を行った。

今後、農業普及課では現行品種である「タマイズミ」と収量や品質について比較を行い、現地適合性を確認する。  
(地域支援第三係・松本政行)



【小麦の収穫作業】

### ■秋冬ブロッコリー 栽培研修会が開催される

6月6日、JAぎふ北方支店、12日、JAぎふ三輪支店、17日、JAぎふ正木支店において、JAぎふブロッコリー生産連絡協議会の栽培研修会が開催された。

JAぎふ担当者、全農担当者から平成30年度産の販売実績と課題、令和元年度の方角性等について説明後、農業普及課から平成30年度産の栽培概要および試験結果、今年度の栽培に向けた管理ポイントについて説明した。

市場からは、11月から2月まで偏りのない出荷が求められており、農業普及課では、そのための栽培管理情報の提供などにより支援を行う。  
(地域支援第一係・鈴木郁子)



【次作に向け研修会】

### ■えだまめ 本格出荷に向けて目揃会を開催

6月14日、17日、21日、JAぎふ島集荷場、曾我屋選果場、黒野流通センターにおいて、JAぎふえだまめ部会員を対象とした露地えだまめの目揃会が開催された。

目揃会に続いて行われた栽培研修会では、農業普及課から異常気象に対応した栽培管理や近年問題になっているダイズシストセンチュウ対策などについての情報提供を行った。

今後も、農業普及課では、高品質で安定したエダマメが出荷できるよう支援を行う。  
(園芸産地支援第一係・高井 啓)



【熱心に目揃を行う生産者】

## 住みよい農村づくり

### ■羽島体験プロジェクト 水稲田植え体験支援

6月9日、羽島市桑原町において、第22回羽島体験プロジェクトの田植え体験イベントが開催された。

小雨の中の作業となったが、参加者は手慣れた手つきで「ハツシモ」の田植えを行った。その後、子どもたちによる除草のためのアイガモの放鳥が行われた。

農業普及課からは、水稲「ハツシモ」の品種特性やアイガモ稲作の紹介、手植え方法について説明をした。

秋には、地元の農業への理解がより深まるよう、収穫体験といった一連のイベントが予定されている。  
(地域支援第二係・今井啓司)



【アイガモを放鳥して除草】